

株式会社アルファシステムズ

第42期中間報告書

2013年4月1日から2013年9月30日まで



ユビキタス社会実現に貢献する
アルファシステムズを
もっと知っていただくために



● 株主の皆様へ



代表取締役社長 黒田 憲一

■ プロフィール

1973年に日本電信電話公社（現NTT）に入社し、2002年にNTTアドバンステクノロジー株式会社 取締役コアネットワーク事業本部長。2009年に当社常務取締役、その後、専務取締役を経て、2013年6月に代表取締役社長に就任。

新たな経営体制で、時代の変化に対応しながら、持続的成長を目指します。

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素よりアルファシステムズの経営に多大なご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

このたび、代表取締役社長に就任いたしました。当社の諸先輩方が培ってきたものを継承するとともに、時代の変化に対応しながら持続的成長へ向けて、邁進したいと考えております。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

Q 第42期上半期を振り返り、事業環境と所感についてお聞かせください。

ICT業界は昨年度末以降、アベノミクスの影響もあり緩やかな回復傾向にあります。一方で、業界全体が大きな変革期にあり、特に当社との関わりが深い通信業界では、通信トラフィックの増加が収益の増加につながらず、ビジネスモデルの転換に通信事業者が苦慮している状況です。

当社はここ数年、景気低迷が続く中、常にコストダウンの要求にさらされ、厳しい経営環境下にありました。しかしながら、当上半期はオープンシステム分野の開発業務が順調に拡大し、良好な結果を得ることができました。これは、オープンシステム分野を牽引する部門と通信分野を担当する部門をまとめる等の機構改革を期首に実施し、両分野の商流により柔軟に対応できる体制を構築したことも寄与していると考えております。

Q 今期の事業方針とその取り組みの状況について、お聞かせください。

当社は現在3つの成長戦略を推進しております。投資拡大が見込める「オープンシステム分野へのさらなるシフト」、低迷している利益水準回復のための、ソフトウェア開発全般における「製造コスト構造の改革」、そして新プロダクト開発の加速化等による「プロダクト・サービスビジネスの基盤強化」です。

この成長戦略のうち、「オープンシステム分野へのさらなるシフト」については、上半期の業績にも表れている通り、大変順調でした。競争相手が多量に、顧客ニーズの高い技術を積極的に採り込む等により差別化を図りつつ、受注案件の不採算化を防止するために、開発へ参画する前の段階からリスクマネジメントを徹底しております。併せて、要員の計画的な育成にも取り組んでおります。

次に「製造コスト構造の改革」では、どのような

新成長戦略

オープンシステム
分野への
さらなるシフト

製造コスト構造
の改革

プロダクト・
サービスビジネス
の基盤強化

ところで余分なコストが発生しているか、開発プロセスとそれを取り巻く業務プロセス全般の見直しを進めております。当社のような企業にとってコスト構造は「競争力の源泉」そのものです。そして当社の強みは「難しいものでも、必ず仕上げる」といわれている開発力です。この開発力をベースにして生産性を向上させるべく、いかに技術者が実力を発揮できる環境を作り出せるかを常に考え、継続的なプロセス改善を実施してまいります。

3つ目は、「プロダクト・サービスビジネスの基盤強化」です。当社では、主力であるソフトウェア開発事業に加えて、新たな収益源となるビジネスの創出を目指して、自社製品や自社サービスを主軸とした販売、システム構築、ネットワーク構築等の事業を進めています。しかしながら、当事業は、今期計画でも総売上高に占める比率は3.3%に過ぎません。今後当社の新たな収益源とするには、どうすればよいか、より利益を生み出すビジネス

モデルや製品機能は何か、といった事業基盤の見直しを進めています。

例えば、8月に発売したデジタル放送番組対応のiPhone/iPad向けメディアプレーヤーアプリ「Media Link Player for DTV」は大変ご好評をいただいています。これがきっかけとなって、大手メーカー様の機器にこのソフトウェアを組み込んでいただく話が現在進行しております。また、新たな分野として取り組んでいるヘルスケア関連や高齢者見守り向けのソリューションにおきましても、事業化に向けて技術力とノウハウを蓄積しているところです。

Q 企業価値向上への取り組みについて、お聞かせください。

私は当社を「社員がイキイキと働き」、「業界・顧客に一目置かれ」、結果として「業績を着実に上げ

続ける」会社になりたいと考えております。さらには、ソフトウェア業界の業務環境の改善にも当社として貢献できることはないかと考えており、このような側面からも企業価値の向上に取り組んでまいります。株主・投資家の皆様への利益還元については、当社はこれまで一度も配当金を減額したことはなく、今後も「安定配当」の方針を堅持してまいります。

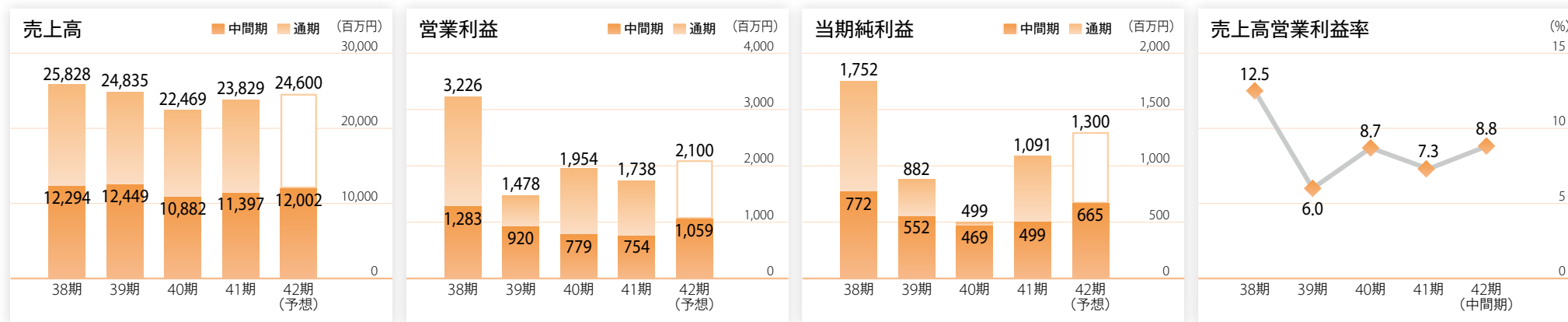
Q 最後に、株主・投資家の皆様へメッセージをお願いします。

ICT業界は、今大きな変革期にあります。先行きが不透明な一方で、飛躍に向けての大きなチャンスでもあります。このような中で、社員の力を結集し、新たな成長軌道への取り組みに邁進したいと考えており

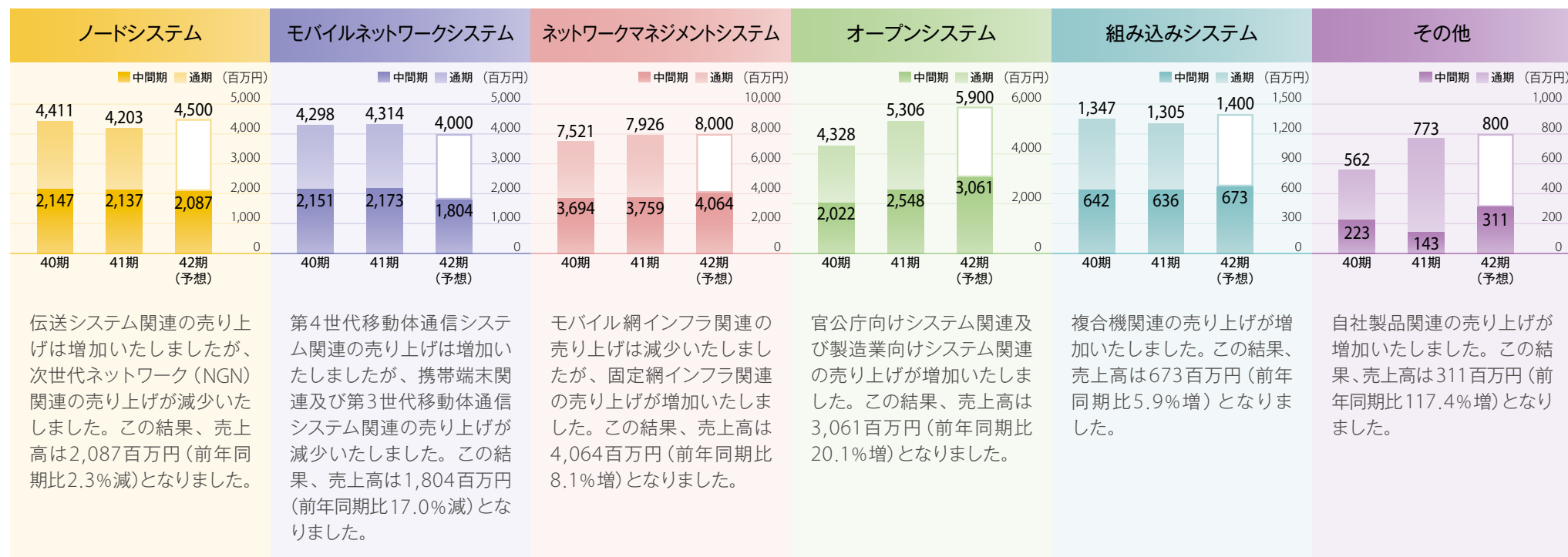
ます。株主・投資家の皆様には引き続き、ご支援、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



● 事業概況のご報告

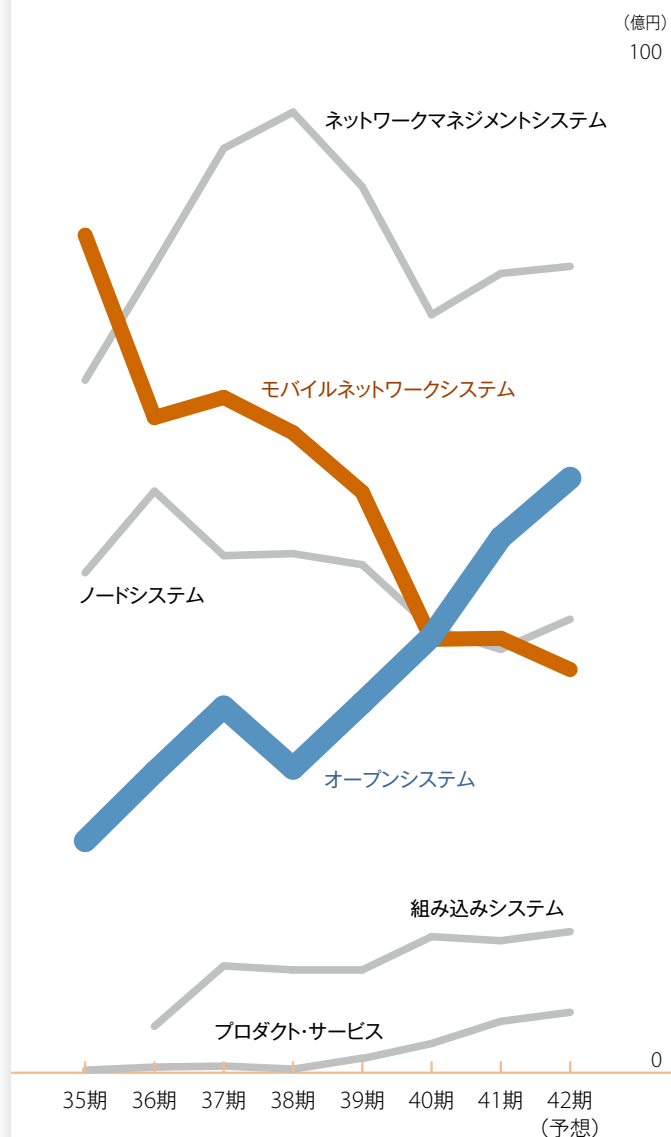


事業区分別の概況 (売上高)



● 今期の事業環境

事業区分別売上高の推移



当社の主要な事業分野である国内携帯端末市場は、通信事業者の携帯端末販売戦略の影響を大きく受けます。国内携帯端末メーカーの市場シェアは減少傾向で、今期、メーカー各社で事業の見直しが相次ぎました。携帯端末市場の先行き不透明感が高まるばかりであり、また好転を見込むのは大変難しい状況です。一方で、上期に好調であった製造・金融・社会インフラ分野等のシステム開発は、引き続き一定の需要が見込める状況にあります。下期におきましても、携帯端末市場の縮小をオープンシステム分野で埋め合わせしつつ、リスクマネジメントと生産性向上への取り組みを徹底し、通期業績目標を達成してまいります。

	事業区分	外部環境	環境変化／事業機会
ソフトウェア開発関連事業	ノードシステム	☹️	■ データ通信需要の拡大 (通信インフラ強化が坦々と進行)
	モバイルネットワークシステム	☹️	■ 国内勢携帯端末事業の再編が再加速 (携帯端末開発・検証需要の減少継続) ■ LTE サービス拡大期 ■ 次世代モバイル (LTE-A) が進行
	ネットワークマネジメントシステム	😊	■ コスト削減に向けた運用管理の効率化ニーズ ■ 新サービス開発投資は緩慢
	オープンシステム	😊	■ 公共投資の拡大・企業収益の回復 (公共・企業のIT投資が回復傾向) ■ 次世代社会インフラ投資が進行 (スマートエネルギー)
	組み込みシステム	☹️	■ 国内メーカーの新規投資は慎重
その他	プロダクト・サービス	😊	■ Wi-Fi 活用市場の広がり ■ ヘルスケア・高齢者向けソリューション市場の広がり

● アルファシステムズの製品ソリューション

製品
ソリューション

1

Media Link Player for DTVを発売

Media Link Player for DTVは、アップル社のiPhoneやiPadでテレビ番組を見るためのアプリです。自宅のソファやベッドだけではなく、通勤電車やカフェ等にテレビ番組を持ち出して見るすることができます。急速に普及するスマートフォンやタブレット端末を利用して、テレビ番組をいつでもどこでも楽しめる豊かな生活をお届けします。

Media Link Player for DTVの利用イメージ



アプリ操作イメージ



放送中の番組視聴のイメージ



番組を持ち出しする操作イメージ

「ヘルスケア・見守り」ソリューションを提供

本ソリューションは各家庭にタブレット端末を配置し、安否確認、健康管理、情報伝達、生活支援、地域やコミュニティとの連携等のサービスを提供します。65歳以上の人口が3,000万人を超える“高齢者先進国日本”において、高齢者に安心・安全をお届けします。

アプリ構成例



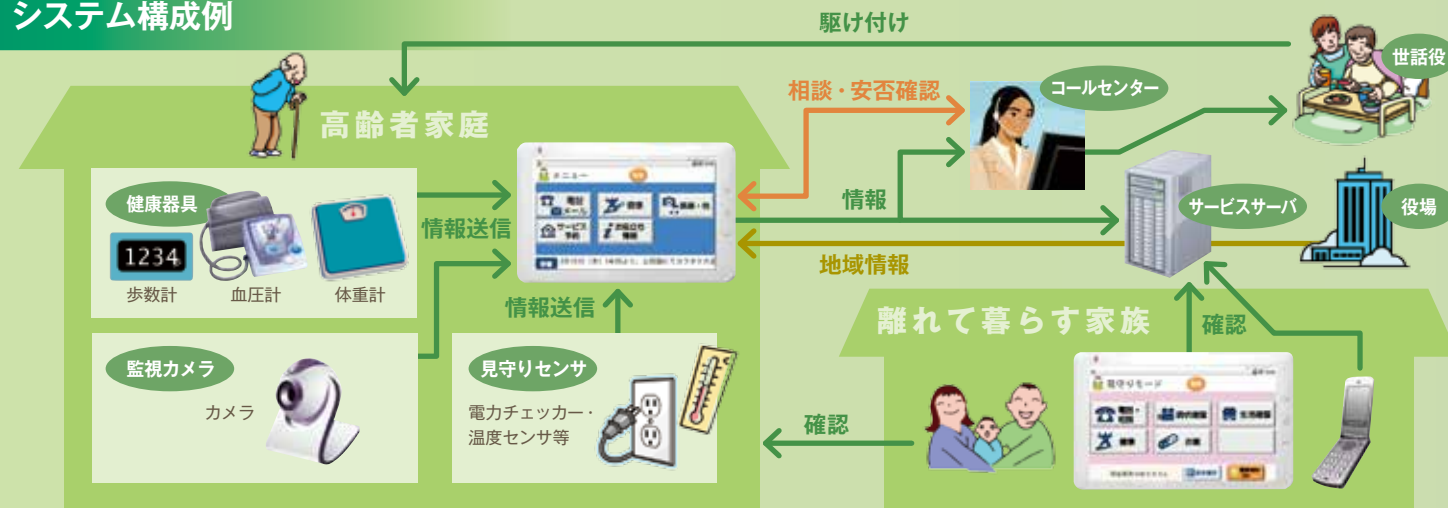
【高齢者側 機能例】

- 健康管理 (血圧管理、体重管理、歩数管理)
- 服薬管理 (お薬タイマー、服薬履歴)
- 定期安否確認
- コミュニケーション (TV電話、手書きメール)
- 情報配信 (音声読み上げ)
- 娯楽 (音声小説、頭の体操)
- その他

【見守り側 機能例】

- 健康管理状況の確認
- 服薬状況の確認
- 定期安否状況の確認
- 端末操作履歴による安否確認
- センサ・カメラの履歴状況確認
- 異常検知時の通知
- その他

システム構成例



【展開事例】

- 東芝ソリューション様
健康シニア向けヘルスケア事業の導入
- 介護施設：見守り
介護施設による見守り連携
- 自治体：ヘルスケア
市民を対象に血圧・体重の管理や、健康情報の配信を行い、ヘルスケアリテラシーを向上
- 病院：バイタル機器連携
血圧計・体重計・歩数計等からのデータ自動取得連携による業務効率の改善

本社移転のご案内

当社は、平成25年10月11日より本社を下記に移転いたしましたのでご案内申し上げます。これを機に役職員一同、さらなる社業の発展に尽力してまいり所存でございますので、今後ともより一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



新本社

〒211-0053
神奈川県川崎市中原区上小田中6丁目6番1号
中原テクノセンター1号館
電話：044-733-4111（代表）
Fax：044-739-1100

- ☐ JR武蔵中原駅より徒歩10分
- ☐ JR武蔵小杉駅、東急東横線武蔵小杉駅より徒歩15分



株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂7丁目10番11号 電話：0120-232-711（通話料無料）
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.alpha.co.jp/ (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

お知らせ

ご注意

- (1) 株主様の住所変更、配当金の振込みのご指定、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- (2) 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- (3) 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

 **株式会社アルファシステムズ**
〒211-0053 神奈川県川崎市中原区上小田中6丁目6番1号
中原テクノセンター1号館
電話：044-733-4111（代表） Fax：044-739-1100
<http://www.alpha.co.jp/>

